

平成30年度 函館あおい幼稚園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	7.6	園の教育理念や教育方針を理解している。
	7.8	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	6.6	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	5.8	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	6.8	教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	7.5	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	5.5	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	7.6	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかなどを常に観察している。
	6.4	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	6.1	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる。
	5.9	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	8.1	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	5.6	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	9.0	幼児のことについて、常に保育者同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
教師としての資質・能力・良識・適性	8.4	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	6.3	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.6	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.0	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.3	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.0	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.3	個々の子どもの様子は直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	6.6	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの教育的な意義付けをはっきりとさせてからにしている。
	7.1	自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞く。
研修と研究	7.3	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	6.9	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	5.5	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

学級経営反省点

- ・子どもたち同士のかかわりの中で、仲が良いために言葉が強くなることや、逆に一言足りずに思いが伝わらず誤解が生じた「言葉」にまつわる課題が多かったように感じた。何をどのように伝えたらよいのか、何が足りなかったかなど子どもたちと一緒に考え、理解出来るような援助を行うべきだったと反省した。（3年目教諭）
- ・思いをなかなか言葉にできないことが多かったクラスだったが、話し合いなどを繰り返していく中で、だんだんと自分の意見や思いを伝えようとする子どもたちが増えた。しかし、その意見を自分が形にしてあげられたかという、半分程しか行えなかったように思った。様々な部分で保育をすすめていく難しさを、改めて感じ、新たに課題ができた。（14年目教諭）
- ・個別の援助を必要とする子が多かったため、活動の中で「視覚」で伝える保育を多く取り入れた。時々上手いかずに不安を抱かせてしまうことや、全体での共通理解が足りない部分があった。個々・クラス全体でのそれぞれの理解のバランスという部分でのすすめ方が、とても難しかった。（11年目教諭）
- ・二人担任として互いに同じ方向を向いて学級経営をすすめていくために、1学期・2学期は実際に自分が前に立ち保育をすすめながらポイントを伝えていった。「子どもたちの反応や姿」「ねらいをもとにした保育内容」「導入の大切さ」「興味を引き出す導入」を伝えることを目指した。少しずつ新任教諭にも保育で前に立つ環境をもたせることで、本人が足りなかった部分の子どもたちへの言葉がけ・援助を行い、保育の質を維持できるように心がけた。基本的な生活習慣の中の衣服の着脱などでは、「どこまで手を貸して援助していくか」という部分で、クラスで3人（補助教諭も含む）いる教師の思いの統一が図れていなかった。今後のチーム保育を行うにあたっての課題だと感じた。（15年目教諭）
- ・子どもたちの成長を日々感じながらも、一人一人に着目した際に、細かい部分の課題に取り組み、声をかけてあげられることができなかった。他の先生方の言葉がけで気づかされることが多く、これからは自分でも気づけるようにしたい。（1年目教諭）
- ・初めて年少・満3歳児を担当し、集団生活が初めての子どもたちに基本的な生活習慣などを、しっかりと習慣づけていくことの難しさを知ることができた。どのような方法や伝え方を行うと理解がしやすいか、改めてこの機会をいただいたことで考えることができた。（7年目教諭）

今後取り組みたい課題

- ・言葉や文字による援助だけではなく、「視覚」で伝える援助を取り入れ、個々の活動が円滑にすすむよう工夫したい。（3年目教諭）
- ・環境によって子どもたちの遊びや生活など、とても変わることを感じた。これからも様々な環境作りの設定にチャレンジし、実行していきたい。（1年目教諭）
- ・活動を行うことによって、どのような部分を育てたいかという「ねらい」を明確にし、良い方法を常に考え、取り入れていきたい。（1年目教諭）
- ・学年での共通理解・意見交換なども積極的にを行い、様々な活動や行事に取り組んでいきたい。また、一つ一つ丁寧な保育を心がけ、楽しさの中にもルールやマナーが必要であることを意識して過ごせるような保育を心がけたい。（11年目教諭）
- ・平成31年度より幼保連携型認定こども園になるにあたり、保育に欠ける子を保育するという意識の持ち方を改めてもち、勉強していきたい。また、新しい保育部としての体制となることで、保育教諭一人一人が声を出しやすい環境作りに努め、共通理解をはかるための発信力を大切にしたいと思う。（15年目教諭）

学校関係者からの評価

- ・教師という立場はただでさえ大変だと思いますが、自己評価をして反省を行い、保育をもっと高めたいという前へすすむ姿を文章を読ませていただき感じました。あおい幼稚園は雰囲気がとてもよく、先生方も熱心で親も子ども幼稚園生活が楽しいです。園長先生はじめ、職員の皆さんがとても一生懸命で、すべてにおいて気遣って下さっていることがいつもよく伝わります。
- ・教職員の方々が、全員でひとつのチームになり保育されている様子が、保護者にもよく伝わりました。認定こども園になっても、一人一人の先生方が様々な空気感や他のクラスの状態・園児の様子を感じ、一体となる素晴らしい保育をぜひ続けてほしいと思っております。
- ・園だよりの中で「給食カレンダー」ではなく「昼食カレンダー」にしていただけると、全体の昼食の予定がわかるので、ご検討いただくと嬉しいです。
- ・自己評価表を見て、先生方の真剣な気持ちが伝わりました。経験のある先生と、新人の先生とのかかわりも、よくとれているのだろうと感じました。アンケートに関しては全て①（満足）という回答になりましたが、何の迷いも躊躇いもなく答えることができ、素晴らしい幼稚園だと改めて思いました。
- ・学年クラス関係なく、先生方は子どもたちを見ているのだということ、とても感じています。個人的なことで言うと、クラス内での友達との関係で、意見や思いを上手く伝えられずに家で泣いたりしたこともあったので、細かい事でも先生に相談したり、声かけの機会を作っていただける時間も気軽にあって嬉しいです。来年度には認定こども園になるので、行事や保育内容等変化する部分もあるとは思いますが、子どもたち・先生方・保護者の皆さんとかかわり合いがもてる行事などあれば、嬉しいです。
- ・教職員の皆さん「話かけやすい」「相談しやすい」「お願い事をしやすい」と、いつも保護者に対して、温かい姿勢で対応をいただけてました。また、バスのおじさん・お掃除の先生、行事でお手伝い下さる皆様にも、いつも心遣いを感じ感謝しています。
- ・厳しい評価や反省点が多く見られ、保育に対する熱い思いが伝わってきました。来年度からは認定こども園になりますが、今までのあおい幼稚園の雰囲気と変わらずにすすんでいただくことを望んでいます。
- ・お手紙やメールでたくさん連絡をいただき満足していますが、時々どこに必要な情報が書いてあったか迷子になってしまうことがありました。